

I 研究内容

1 研修主題

ともによりよく生きようとする児童の育成
—思いや考えを伝え合い、互いに深め合う道徳の時間の工夫・改善を通して—

2 主題設定の理由

道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うという道徳教育の基本的な考え方を今後も引き継ぐとともに、道徳の時間を要として道徳教育の趣旨を踏まえた効果的な指導を学校の教育活動全体を通じてより確実に展開することが期待され、教育課程の改善が図られた。そして、平成 27 年 3 月に小学校学習指導要領が改訂され、平成 27 年 4 月 1 日から移行措置として、その一部又は全部を実施することが可能となった。また、平成 27 年 7 月に小学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」が示された。道徳科の目標として「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」ため、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習」を通して、「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」と示されている。そのため、道徳科の授業では、よりよく生きるために道徳的価値に向き合い、いかに生きるかを自ら考え続ける姿勢こそ道徳教育で養う資質であり、道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換を図るものである。平成 30 年 4 月 1 日から全面実施される「教科化」に向けて学校教育における道徳教育の役割はさらに高まるものと考えられる。群馬県の学校教育の指針でも、本時のねらいの達成に向けて、話し合い活動を効果的に展開し児童生徒の道徳的価値の自覚を深めるよう、指導の重点が示され、言語活動の充実が推進されている。伊勢崎市においても、「伊勢崎教育構想 2016」の「愛」燦々プランにおいて、一人一人の子どもたちを大切にしたい指導・支援の充実を図り、温かい学級の中で自己有用感を育んだり、豊かな交流活動や体験活動の充実を挙げ、社会性を基盤とした豊かな心を育てたりすることを目指している。

本校では、2 年間の文部科学省委託事業「道徳教育総合支援事業」の研究指定を受け、昨年度は、道徳教育の要としての「道徳の時間」の指導の充実を全校体制で共通理解のもとに計画的、意図的に実施することに重点を置き、道徳の授業の工夫・改善を図ってきた。そして、道徳の時間において、「自分の思いや考えを伝え合う活動」を副主題に揚げ、1 年間の研究を推進してきた。その中で児童は、自分の考えをもつとともに、他者の思いや考えに触れ、自分の考えを深めたり高めたりして、他者ととともにこれからの自分の生き方をさらによいものにしようと努めてきた。

本校の児童は、困っている友達や下級生に優しく声をかけるなど思いやりの気持ちをもって接し、素直な児童が多い。花壇の花や教材園の野菜などの身近な自然を大切にしたり、身近な地域の人々と関わったりしながら明るく元気に生活をしている。しかし、よいと思っても自分の考えに自信がもてず、積極的な行動につながらないところなど、理解し

た道徳的価値について日常生活に生かし切れない姿も見られる。また、他者の考えを尊重したり根拠をもって自ら考えたりすることができてきているが、生活経験や学習経験と結び付けて自分事として考えるまでには至っていない。さらに、また、友達の考えを生かしたり取り入れたりして、これまでの自らの考えを深めることについても十分とはいえない。

以上のことから、本年度、副主題を「自分の思いや考えを伝え合い、互いに深め合う道徳の時間の工夫・改善」とし、道徳の時間において、自分の思いや考えを伝え合い、他者の考えを自らの考えに取り入れたり生かしたりして、他者と関わりながら互いの考えを深め合う、多面的・多角的に考える話し合い活動を取り入れ、工夫・改善することによって、「ともによりよく生きようとする児童の育成」を図ることができると考え、本主題を設定した。

3 研修のねらい（研修目標）

道徳の時間において、児童一人一人が、自らの思いや考えを伝え合い、他者の考えを自らに取り入れたり生かしたりして互いに深め合うことにより、多面的・多角的に考え、他者と関わりながら自己の生き方を見つめ、ともによりよく生きようとする児童を育成する。

4 研修の見通し（研修仮説）

道徳の時間において、自分の思いや考えを伝え合い、他者の考えを自らの考えに取り入れたり生かしたりして、多面的・多角的に考える話し合い活動を取り入れ、工夫・改善することによって、他者と関わりながら互いの考えを深め合いながら、ともによりよく生きようとする児童を育成することができるであろう。

5 基本的な考え方

(1) 「ともによりよく生きようとする児童」とは

他者との関わりの中でよき人間関係を築きながら、他者と自分との思いや考えを理解したり比較したりすることで人間としての生き方についての考えを一層深め、他者とともにこれからの自分の生き方をさらに高めることができる児童

と考えた。

児童は個別的でありながら、学校や家庭、地域社会など様々な関わりの中で生きている。その中で児童は、多くの生活経験や学習を積み重ね、生きる力を徐々に身に付けることができるようになる。そして、児童が他者と思いや考えを伝え合うことで、それぞれの違いやよさを理解し、心を通じ合わせて生きようとすることができるようになる。さらに、よりよい自分を求めて自己を肯定的に受け止め、他者との関わりや集団の中での自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己を見つめ、高みを目指してよりよく生きていきたいという考えを高めていくことができると考える。

(2) 「思いや考えを伝え合い、互いに深め合う」とは

児童が自分との関わりで道徳的価値を捉え、自分の思いや考えを友達と伝え合い、多面的・多角的な考えに触れ合う話し合い活動を通して児童一人一人が道徳的価値観を深めること。

と考えた。

児童は、ねらいとする道徳的価値についての自分なりの思いや考えを持っている。それを道徳の時間において友達と互いに伝え合うことにより、多様な価値観に触れ、新たな考えを持ちたり、強めたり、広げたりして、道徳的価値の理解について多面的・多角的に考え、互いに深めることができる。

具体的に「道徳的価値の理解」とは、次の三つに整理することができる。

【価値理解】 内容項目を人間としてよりよく生きる上で大切であると理解すること。

【人間理解】 道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなどを理解すること。

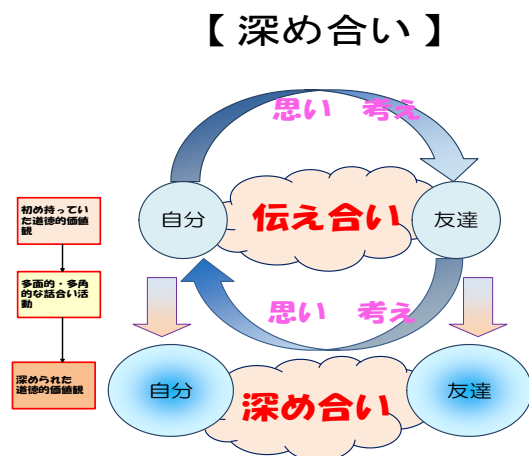
【他者理解】 道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方・考え方は一つではない、多様であるということを前提として理解すること。

児童が将来出会うであろう場面・状況において、どうすればよいかを児童自身が考えていくことが大切であるということから、道徳的価値についても、様々な側面、角度から考えていくことが大切である。つまり、物事を一面的に捉えるのではなく、児童自らが道徳的価値の理解を基に考え、様々な視点から物事を理解し、主体的に学習に取り組むことができるようになることが大切である。そこで、互いに思いや考えを深め合うための有効な手段として「多面的・多角的な考えに触れ合う話し合い活動」を学習活動に位置づける。

(3) 「思いや考えを伝え合い、互いに深め合う道徳の時間の工夫・改善」について

児童が「自分の思いや考えを伝えたい」と思える発問、つまり、児童が自分との関わりで考えられる発問、必然性や切実感のある発問となるよう工夫・改善する。そのためには、教師が明確な指導観の基に資料分析を行い、どのように道徳的価値の理解を図るのか、明らかにし、それとぶれないよう中心発問から検討していく。中心発問において、多角的・多面的な考えに触れ合う話し合い活動を取り入れることが、互いに道徳的価値の理解を深めていくことにつながるであろう。

次に、中心発問で出された思いや考えを基に、価値理解・人間理解・他者理解が促され、互いに考えを深め合うことができるような、共通の視点を考える。



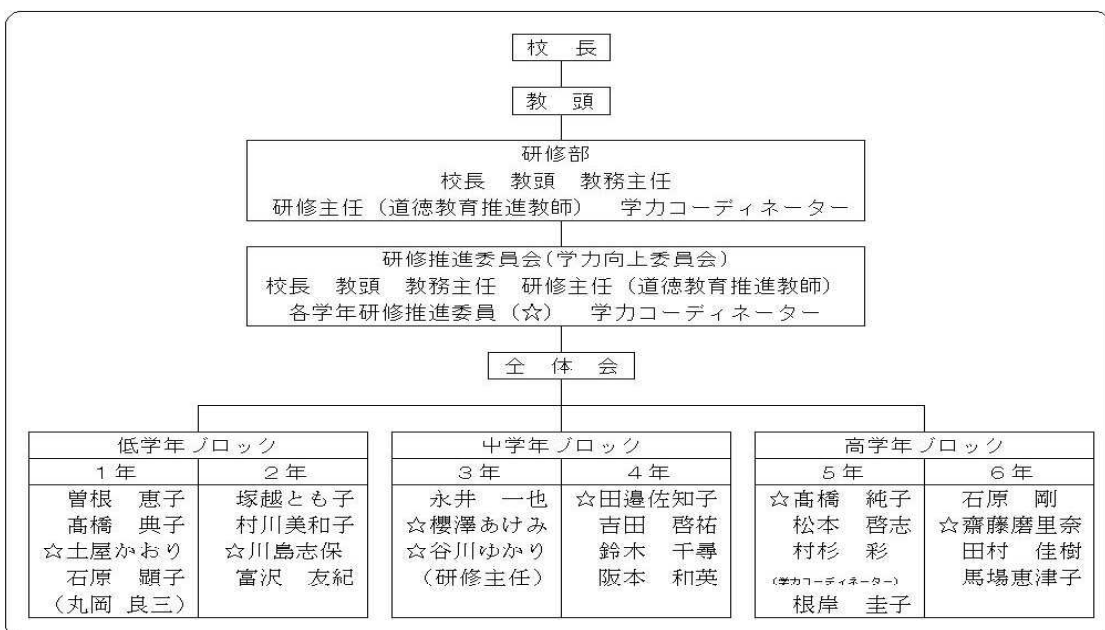
さらに、中心発問の場を活性化させることができるような補助的な発問を投げかけて話し合うことで、児童は価値理解について、より多面的・多角的に考えることができるようになる。この補助的発問を「深める補助発問」とし、中心発問における話合いの中に位置づける。解決策の結果を考察させたり、可逆性を考えさせたり、普遍性を問うたりするなど、児童の心を揺さぶったり、深く考えさせたりする多様な発問を用意しておくことが肝要である。このような授業展開を行うことで、児童が多角的・多面的に考え、互いに深め合うとともに、道徳的価値も深めることができる。と考える。

【深める補助発問の種類と具体例】

<p>A 解決策の結果を考察する補助発問</p> <p>「□すると、どうなりますか。それはなぜですか。」</p> <p>☆効果 ・行為を行った結果まで踏み込んで考えることにより、自分事として考えた本音や現実論を出すことができる。</p> <p>☆活用例 □に入る言葉 「親切にできなかったら」「正直に言えたら」</p>	<p>B 可逆性を考える補助発問</p> <p>「自分がそうされたらどうですか。それはなぜですか。」</p> <p>☆効果 ・他者の立場に自分を置き換え、その解決策が自分に適用されてもよいかを尋ねることで、より広い視野で多面的・多角的に物事を考えることができる。</p> <p>☆活用例 ・相手の立場や思いを考えさせたいときに有効である。</p>
<p>C 友達の考えに目を向ける補助発問</p> <p>「出された考えの中で、なるほどと思うのはどれですか。」</p> <p>☆効果 ・自分と異なる友達の考えについてより深く考えることができる。</p> <p>☆活用例 ・自分では気付かなかったことや、自分の考えが深まったり広がったりしたこと、視点を考えさせる。</p>	<p>D 共通している気持ちを考える補助発問</p> <p>「これらの考えに共通しているのはどんな気持ちですか。」</p> <p>☆効果 ・価値について焦点化できる。</p> <p>☆学習活動例 ・同じような考えが出されたときや、異なる考えの中にも価値に関わる共通点があるときに使うことができる。</p>
<p>E 一つを取り上げて考える補助発問</p> <p>「この考えについてどう思いますか。」</p> <p>☆効果 ・教師が意図的に一つの考えを取り上げることで児童は価値についてより深く考えることができる。</p> <p>☆活用例 ・「この考え」の部分には、より深く価値に迫れるものを選ぶ。 ・少数の考えを取り上げて考えさせることもできる。</p>	<p>F 普遍性を考える補助発問</p> <p>「いつでも、どこでも、誰に対してもそうできますか。」</p> <p>☆効果 ・広い視野で様々な可能性を想定し、普遍的な解決策を考えることができる。</p> <p>☆学習活動例 ・人間理解を視点にした価値理解を促させたい場合、有効である。</p>

6 研究の方法

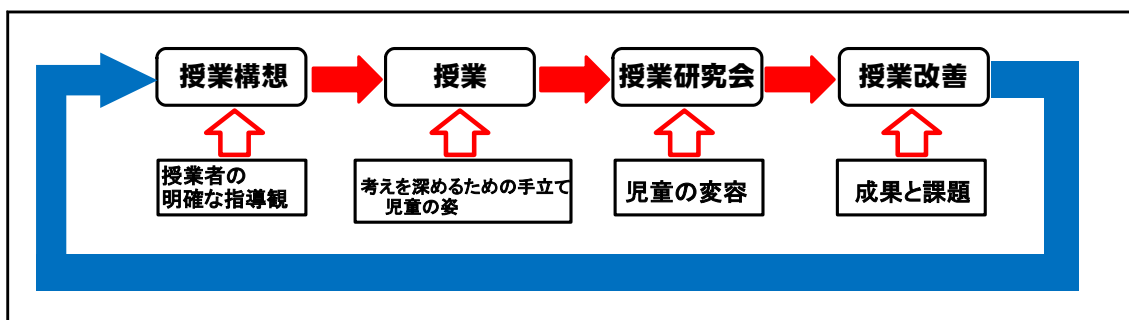
平成27年度は、「授業研究部会」「調査・資料部会」「特活・環境部会」の3部会編成とし、「授業研究部会」に「低・中・高学年ブロック部会」をおき研修を進めてきた。本年度は、その充実に向けて「学年部会」を組織の中心とし、必要に応じて低・中・高学年ブロック部会を設けることとした。「調査・資料部会」で行っていた実態調査や年計・別葉の見直し、教材の精選や教材づくりなどは「学年部会」で行うこととした。「学年部会」を中心としたことで、授業づくり・授業研究会・授業改善を毎週、定期的・継続的に行うことができる。そして、特別活動・環境部会は既存の分掌組織である、特別活動部・環境部に引き継いだ。



7 検証方法

道徳授業の授業改善・工夫に視点をおき、各学年部会を中心に、授業構想、授業実践、授業研究会をPDCAのサイクルで、児童が互いに考えを深め合うことができているかについて検証している。授業実践では、授業者が明確な指導観をもち、ねらいとする価値とぶれないよう、授業の視点を設定する。そして、価値理解や人間理解、他者理解、自己理解という観点から、授業における児童の変容を通して検証を行う。

【PDCAサイクルによる検証】



8 研究経過

(1) 具体的な内容

①理論的研修

- ・「学習指導要領解説 総則編」「特別の教科 道徳編」(H27 7月)の輪読、「はばたく群馬の指導プラン」「はばたく群馬の指導プラン実践の手引き」の活用、参考文献の購読
- ・講師招聘による講演会、学習会、先進校視察並びに出張報告会

②分析による研修

- ・教材や資料研究の充実
- ・各種調査やアンケートの結果の集計や分析、児童の実態把握と考察

③道徳授業の工夫・改善のための研修

- ・実態調査や各種アンケートの集計及び結果の分析
- ・目指す児童像の検討
- ・授業のねらいに的確に迫るための中心発問の工夫・改善
- ・思いや考えを互いに深めるための補助発問や手立ての工夫・改善
- ・学習指導過程の工夫・改善

【計画的・組織的な道徳授業の推進】

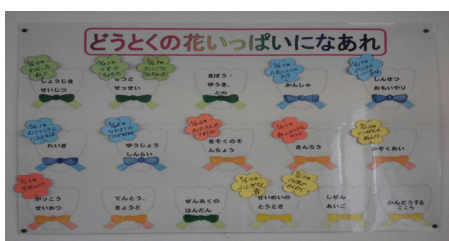
- ・道徳推進教師と学年部会による明確な指導観を基にした教材研究
- ・道徳推進教師を中心とする学年会を活用した意図的・計画的な授業づくり・教材づくり及び授業研究会
- ・教材の保存
- ・学年部会を中心とする模擬授業・一人2授業及び授業研究会の実施
- ・学年やブロックによる授業研究・模擬授業・検討・外部に向けた公開授業
- ・代表授業による重点的研修
- ・校長室前に各学年の「道徳コーナー」(実践の発表)の設置
- ・職員室内に「職員のための道徳コーナー」(教材・資料・参考文献等)の設置
- ・授業時数の確保および視覚化のための「道徳の花」の教室掲示
- ・紀要作成



【教材の作成および保存】



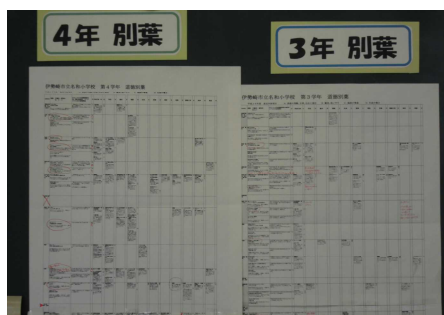
【各学年の道徳コーナー】



【各教室に掲示されている「道徳」の花】



【職員室における道徳コーナー】



【職員室に掲示されている別葉】



【別葉の見直し・加筆及び修正】

〈道徳教育の指導計画の作成〉

- ・道徳教育全体計画・各学年の年間指導計画・道徳別葉の見直し・加筆及び修正

④全教育活動における道徳教育の推進・充実

〈温かい学級づくりと学級活動の充実〉

- ・児童が相互に認め合い支え合う学級づくり
- ・学級経営との関連を図り、計画委員会を中心にした話し合い活動や児童主体の学級活動の充実

〈よりよい人間関係づくり（いじめ・不登校の未然防止）〉

- ・生徒指導部会および教育相談部会の活動を活性化し、学習生活相談員やスクールカウンセラーとの連携を図りながら、学校全体で「絆づくり」に努める。
- ・毎月1回、「なかよしアンケート」を行い、児童理解に努め、いじめの未然防止、早期発見、早期解決を図る。
- ・人権教育講師招聘学習会

〈体験活動の充実〉

- ・縦割り活動や各種集会
- ・緑の少年団の活動の充実
- ・ボランティアの活用
- ・道徳講演会の計画・設営
- ・様々な活動におけるボランティアリーダーの育成に力を入れ、多様な活動ができるようにする。
- ・あいさつ運動、委員会活動

⑤家庭・地域との連携

- ・授業のねらいや家庭で話し合っしてほしいこと等が書かれた道徳家庭通信の毎授業ごとの発行
- ・振り返りシートの保護者欄の設置
- ・学習参観や学校公開日における積極的な道徳授業公開
- ・地域人材や保護者による授業協力の効果的な活用
- ・外部講師の活用

（2）基本的な学習指導過程

道徳の時間の目標は、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める活動を通して、道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度を育てることである。

本校では、児童一人一人が自己の生き方についての考えを深められるように、基本的な学習指導過程を以下のように設定した。

【学習指導過程】

【課題をつかむ】 主題に対する児童の興味・関心を高め、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めることに向けて動機付けを図る。

(学習活動例)

- ・事前の体験的活動の写真提示による共通体験の振り返り
- ・資料に関する写真や絵の提示
- ・「わたしたちの道徳」の活用
- ・事前アンケート調査等の提示
- ・ねらいに関わる生活経験の発表や話し合い
- ・教師の説話
- ・資料の内容に関連した説話

【課題を追求する】 ねらいとする道徳的価値の自覚を深める学習の中心となる。

- ・道徳的価値の理解
- ・自分との関わりで道徳的価値を捉える。

教師の共感的支援

◆資料提示の工夫

- ・紙芝居
- ・読み聞かせ
- ・ペープサート
- ・再現構成法
- ・語り聞かせと補助教材の併用
- ・パネルシアター
- ・パソコンを利用したスライドショー
- など

◆発問の工夫

- 【他者理解に迫る発問】 多様な考え方・感じ方について理解を深める発問
- 【人間理解に迫る発問】 道徳的価値の実現の難しさに気付かせる発問
- 【価値理解を深める発問】 道徳的価値の大切さに気付かせる発問
- 【自己理解に迫る発問】 自分事として考えられるようにする発問

◆発問の表記

- 中心発問・・・□
- 深める補助発問・・・☆

板書の工夫

互いに考えを深め合うための工夫（中心発問における表現の工夫）

- ・役割演技など劇的表現活動に基づく話し合い
- ・互いの考えの同じ所や違う所を分類整理した板書に基づく話し合い
- ・児童の意見交流を促す補助発問
- ・ネームプレートによる意思表示を基にした話し合い
- ・書く活動→意図的指名を基にした話し合い
- ・児童同士の意見交流を意識した話し合い
- など

【課題を内面的に自覚する】

- ・道徳的価値に関わる思いや課題を培う。
- ・ねらいとする道徳的価値に対する思いをまとめたり温めたりする。

【学習活動例】

- ・自分自身の生活経験を想起しての話し合い
- ・「わたしたちの道徳」の活用
- ・ねらいとする道徳的価値に関わる偉人の名言やことわざ、詩、朗読、子どもの作文、保護者からの手紙の朗読
- ・板書を利用した本時のまとめ
- ・校長や教頭、ゲストティーチャーによる説話

(3) 研究授業

○平成27年度（時系列で掲載）

期日	授業者	学年・組	教科等（単元名及び主題名）	内容項目	研究会
4月27日(月)	内田敬久	4年2組	道徳「自分のことは自分で」	1-(1)	4月27日
6月26日(金)	曾根恵子	3年1組	道徳「隠さず正直に」	1-(4)	6月26日
6月29日(月)	馬場恵津子	3年2組	音楽「リコーダーとなかよしになろう」	3-(3)	
6月30日(火)	齋藤磨里奈	2年2組	道徳「親切」	2-(2)	7月3日
6月30日(火)	内田敬久	4年2組	道徳「得意なことを伸ばそう」	1-(5)	7月8日
7月1日(水)	村杉彩	4年1組	道徳「いじめについて考えよう」	2-(3)	
7月1日(水)	谷川ゆかり	2年1組	道徳「悪いと気がついたら」	1-(4)	7月3日
7月2日(木)	飯野幸一	6年2組	理科「生き物のくらしと環境」	3-(2)	
7月3日(金)	村川美和子	2年3組	道徳「みんなが使う物」	4-(1)	7月3日
7月14日(金)	宮田徳子	あおぞら (知)	生活単元「夏休みの生活」	1-(1)	
7月15日(水)	川島志保	3年3組	道徳「友達と助け合って友情を深める」	2-(3)	7月15日
9月1日(火)	高橋純子	6年1組	算数「比と比の値」	2-(3)	
9月7日(月)	石原剛	5年1組	道徳「思いやりの心を大切に(プレ授業)」	2-(2)	9月7日
9月30日(水)	石原颯子	3年2組	道徳「規則を守って」	4-(1)	10月5日
10月19日(月)	谷川ゆかり	2年1組	道徳「温かい心」(研究授業)	2-(2)	10月19日
	杉村彩	4年1組	道徳「ルール違反」(研究授業)	4-(1)	
	石原剛	5年2組	道徳「思いやりの心を」(研究授業)	2-(2)	
10月29日(木)	牛込久美子	なかよし (情)	自立活動「『なかよしハウス』のやくそくをきめよう」	4-(1)	
10月29日(火)	高橋純子	4年1組	算数「計算のきまり」	4-(1)	10月30日
11月13日(金)	新井陽子	1年1組	道徳「みんなが使う物」	4-(1)	1月17日
11月19日(月)	大小原千尋	5年3組	道徳「相手の立場」	2-(4)	12月8日
11月16日(月)	石原颯子	3年2組	道徳「きまりを守るということは」	4-(1)	11月11日
11月16日(月)	吉田啓祐	5年1組	道徳「公共でのマナー」	4-(1)	12月8日
11月20日(金)	土屋かおり	1年2組	道徳「みんなが使う物」	4-(1)	1月17日
11月26日(木)	馬場恵津子	6年1組	音楽「風を切って」	2-(3)	
12月1日(火)	塚越とも子	1年3組	道徳「みんなが使う物」	4-(1)	1月17日
12月7日(月)	曾根恵子	3年1組	道徳「みんなの場所をきれいに」	4-(1)	12月16日
12月8日(火)	阪本和英	6年2組	道徳「広い心」	4-(2)	12月8日
1月28日(木)	塚越とも子	1年3組	道徳「小さな親切」	2-(3)	2月3日
2月13日(水)	新井陽子	1年1組	道徳「小さな親切」	2-(3)	
2月9日(火)	内田敬久	4年2組	道徳「思いやりのリレー」	2-(2)	2月9日
2月10日(水)	吉田啓祐	5年1組	道徳「だれでもが共有できる永遠の喜び」	4-(4)	2月10日
2月12日(金)	土屋かおり	1年2組	道徳「小さな親切」	2-(3)	2月12日
2月16日(火)	阪本和英	6年2組	道徳「差別をなくす」	4-(2)	2月19日
2月19日(金)	村川美和子	2年3組	道徳「ぎおんまつり」	4-(5)	2月19日
2月24日(木)	松本啓志	6年1組	道徳「清らかな心」	3-(3)	2月26日
2月25日(木)	川島志保	3年3組	道徳「さりげない親切」	2-(2)	2月26日
2月26日(金)	齋藤磨里奈	2年2組	道徳「家族愛」	4-(3)	2月26日

3月4日(金)	大小原千尋	5年3組	道徳「心の温かさにふれて」	2-(2)	3月4日
3月8日(火)	宮田徳子	おおぞら (知)	生単「主語と述語」	2-(3)	

○平成28年度(学年別に掲載)

授業者	期日	学年・組	教科等(単元名及び主題名)	資料名	内容項目
曾根恵子	7月6日	1年1組	道徳「どこでやめるのか」	「かぼちやの つる」	A 節度
	11月16日	1年1組	道徳「生まれるってすごいな」	「あかちゃんがうまれるよ」	D 生命
高橋典子	7月11日	1年2組	道徳「どこでやめるのか」	「かぼちやのつる」	A 節度
	10月3日	1年2組	道徳「生まれるってすごいな」	「あかちゃんがうまれるよ」	D 生命
土屋かおり	6月3日	1年3組	道徳「相手の気持ちを考えて」	「ごろりんごろんころろろ」	B 親切
	10月17日	1年3組	道徳「だれにでもやさしく」	「はしのうえのおおかみ」	B 親切
塚越とも子	5月17日	2年2組	道徳「みんなが気持ちよく過ごせるように」	「おじさんのてがみ」	C 規則
	11月16日	2年2組	道徳「よいと思うことは進んで」	「ぼく、よびにいつてくる」	A 善悪
村川美和子	5月10日	2年1組	道徳「みんなが気持ちよく過ごせるように」	「おじさんのてがみ」	C 規則 A 善悪
	10月3日	2年1組	道徳「よいと思うことを進んで」	「ぼく、よびにいつてくる」	C 規則
川島志保	6月3日	2年3組	道徳「みんなが気持ちよく過ごせるように」	「おじさんのてがみ」	A 善悪
	8月31日	2年3組	道徳「よいと思うことは進んで」	「ぼく、よびにいつてくる」	
永井一也	5月19日	3年1組	道徳「隠さず正直に」	「まどガラスと魚」	A 正直
	11月16日	3年2組	道徳「みんなて使うもの」	「水飲み場」	C 規則
櫻澤あけみ	6月13日	3年1組	道徳「行為に表れない親切」	「おじさんの顔」	B 親切
	9月15日	3年1組	道徳「友を思う心」	「ないた赤おに」	B 友情
田邊佐知子	6月3日	4年1組	道徳「気持ちよい生活のために」	「けんじのわすれもの」	C 規則
	10月3日	4年1組	道徳「みんなのきまり」	「ひどいよね」	C 規則
吉田啓祐	5月13日	4年3組	道徳「気持ちよい生活のために」	「けんじのわすれもの」	C 規則
	11月16日	4年3組	道徳「みんなのきまり」	「ひどいよね」	C 規則
鈴木千尋	7月8日	4年2組	道徳「得意なことを伸ばそう」	「あこがれのアナウンサー」	A 個性
	9月2日	4年2組	道徳「みんなのきまり」	「ひどいよね」	C 規則
高橋純子	5月19日	5年2組	道徳「偏らない心」	「消えたマイケル」	C 公正
	6月3日	5年1組	道徳「公共の場のルール」	「ふくらんだリュックサック」	C 規則
松本啓志	6月16日	5年1組	道徳「現代を支える伝統と文化」	「東京スカイツリー」	C 国際
	11月16日	5年2組	道徳「相手のことを考えて」	「くずれ落ちた段ボール箱」	B 親切
石原剛	6月3日	6年1組	道徳「自由に必要なもの」	「頂上はすぐそこに」	A 善悪
	9月7日	6年1組	道徳「命のかがやき」	「その思いを受け継いで」	D 生命
田村佳樹	7月6日	6年3組	道徳「命のかがやき」	「この手に命を受けて」	D 生命
	10月3日	6年3組	道徳「生命の尊さ」	「その思いを受け継いで」	D 生命
齋藤磨里奈	5月25日	6年2組	道徳「自由に必要なもの」	「頂上はすぐそこに」	A 善悪
	11月16日	6年2組	道徳「命のかがやき」	「その思いを受け継いで」	D 生命
谷川ゆかり (研推)	4月28日	3年2組	道徳「行為に表れない親切」	「おじさんの顔」	B 親切
	7月11日	1年2組	道徳「どこでやめるのか」	「かぼちやの つる」	A 節度
石原顕子	6月2日	おおぞら (知)	生単「春の合同校外学習に行こう」		C 規則
根岸圭子	7月5日	なかよし (情)	学活「交流会をしよう」		B 友情

	10月27日	なかよし	学活「秋の合同校外学習に行こう」	C 規則
阪本和英 (教務)	7月12日	4年2組	理科「夏の星」	D 感動
	11月30日	5年1組	理科「物のとけ方」	A 真理
村杉 彩 (算専)	7月4日	3年1組	算数「あまりのあるわり算」	B 親切
	10月5日	5年1組	算数「比べ方を考えよう」	A 真理
馬場恵津子 (音専)	11月30日	4年2組	音楽「明るい歌声をひびかせよう」	B 友情
	9月30日	3年1組	音楽「拍の流れにのってリズムを感じ取ろう」	B 友情

*特別支援学級担任並びに専科教員においては関連する価値項目で実施

*授業研究会については、その都度実施

(4) 講師招聘による講演会等

○平成27年度

日程	講演内容・講師
8月 2日 (日)	モラロジー研究会主催「思いやりの心を育てる」 講演「道徳教育をめぐる動き」 講師：文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀博行 先生
8月 3日 (月)	二中地区幼小中連携研修 「思いや考えを伝え合う道徳教育の工夫・改善」 講師：群馬県総合教育センター指導主事 福島 桂 先生
9月 7日 (月)	「道徳授業で大切なこと 道徳授業学習指導案の作り方」 講師：文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀博行 先生
10月19日 (月)	「今、求められる道徳教育の充実」 講師： 赤堀博行 先生
1月22日 (金)	『『特別の教科 道徳』で、変わること、変わらないこと ～道徳科の完全実施に備えて～』 講師：元全国小学校道徳教育研究会会長 東京福祉大学特任教授 福田富美雄 先生
2月 5日 (金)	「小学校道徳における授業研究の課題と方法 ～教師の暗黙知に着目して～」 講師：群馬大学教育学部教授 黒羽正見 先生

○平成28年度

日程	講演内容・講師
6月 3日 (金)	「授業研究会・授業構想・授業評価について」 講師：元全国小学校道徳教育研究会会長 東京福祉大学特任教授 福田富美雄 先生
8月 8日 (月)	二中地区幼小中連携研修 「特別支援教育の考え方に基づいた支援の充実」 講師：群馬県立伊勢崎特別支援学校 専門アドバイザー 山口 智 先生
8月10日 (水)	道徳研修会 (主任会) 「道徳における最近の動向について」 講師：群馬県教育委員会義務教育課人権教育推進係 指導主事 植木文貴 先生

10月 3日 (月)	「道徳授業づくりのポイント～授業構想, 授業評価について」 講師：元全国小学校道徳教育研究会会長 東京福祉大学特任教授 福田富美雄 先生
11月16日 (月)	「道徳の特別の教科化と授業改善」 講師：文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀博行 先生

(5) 先進校視察

○平成27年度

日程	先進校
5月22日 (金)	群馬大学附属小学校公開研究授業
11月 4日 (水)	管内地区別人権教育研究協議会 伊勢崎市立豊受小学校
11月 6日 (金)	群馬県小学校道徳研究大会 伊勢崎市立三郷小学校
11月30日 (月)	東京都世田谷区池の上小学校 橋本ひろみ 先生
12月22日 (火)	全国小学校道徳教育研究会 東京都千代田区九段小学校
1月26日 (火)	東京都世田谷区池の上小学校 橋本ひろみ 先生
2月23日 (火)	平成27年度文部科学省道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業 埼玉県羽生市井泉小学校

○平成28年度

日程	先進校
9月29日 (木)	東京都世田谷区池の上小学校 橋本ひろみ 先生
10月18日 (火)	東京都世田谷区池の上小学校 橋本ひろみ 先生
11月 2日 (水)	群馬県小学校道徳教育研究大会 富岡市立吉田小学校
11月24日 (木)	文部科学省指定 道徳教育総合支援事業 道徳教育研究発表会 富岡市立南中学校

9 全体構想図

